

子どものつどい in 東本願寺

～ であう つながる ともにある ～

親鸞聖人は、1173(承安3)年に人として生まれ、南無阿弥陀仏を生きる力とし、90年の

生涯を尽くしていかれました。

2023年春、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」をテーマとして

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要が真宗本廟で勤まります。そして同年

5月5日、私たちは、青少幼年とともに「子どものつどい in 東本願寺」を開催します。

新型コロナウイルス感染症をきっかけとして、これまで当たり前にしてきた私たちの生活が

一変し、今の時代の不安と悲しみが露わになりました。世界中のすべての人が直接会うことを

制限され、分断され、孤立を深めています。

今、この時代をその身いっばいに体現して生きる「求道者」としての青少幼年がいます。その

一人ひとりが投げかけているのは、決して感染症による問題だけではなく、「与えられたいのち

に満足して生きていきたい」という、時代を問わず人間が求めたいつまでも変わらない共通の

課題です。だからこそ、私たちも親鸞聖人と同じように人と生まれたことの意味を、念仏の教え

に確かめていかなければならないと思うのです。

しんらんしょうにん つた ねんぶつ ともしび りっきょうかいしゅう ねん むか いま とぎ
親鸞聖人の伝えた念仏の灯は、立教開宗から800年を迎える今、途切れることなくバト

ンのようにつながって私たちに託されました。

わたしは、「子どものつどい」を一人ひとりが念仏の教えに確かめながら、受け止めたものを

ひょうげん あ ば おも それは、それぞれの姿を通してかけがえのない自分にであ

い、時代も場所もこえて無限につながる世界に触れ、ともにあることを見出していける場です。

どうかあなたも「子どものつどい」に参加してください。あなたを待っている人がいます。あな

たの表現でなければ伝えられない人が必ずいます。

そしてこの「子どものつどい」を通して、また新たな世代へとバトンがつながっていくことを願

っています。

ぜひ、お誘いあわせのうえ、子どもたちと共に東本願寺まで足をお運びください。



〈慶讃テーマ〉

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

